

X 2025年度 小論文

工学部 電子情報工学科

問題冊子（1～2ページ）

注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙に正しく記入すること。また、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 解答用紙上部の受験番号欄・氏名欄に受験番号と氏名を記入すること。
- (5) 問題冊子の余白等は適宜使用してもよい。

次の設問に答えよ。

問 学習や課外活動から得た経験を踏まえて、人工知能がもたらし得る技術者の働き方への変化、またそれを受けて電子情報工学を学ぶ者が持つべき態度について、自身の視点で、800字程度で順序立てて説明しなさい。

以下の参考資料は、小論文執筆のきっかけとして与えているものであり、小論文中で引用し、自身の肯定的、あるいは否定的意見を加えても構わない。また、参考資料に依らず、独自の論説を展開しても構わない。

参考資料：西田宗千佳，「生成 AI の核心」（一部），NHK 出版，2023年9月。

生成 AI は、定型文の作成や業務レポートの作成といった、特定のパターンに基づく文章生成も得意としている。これらの作業を生成 AI が担当することで、人間の作業負担を軽減し、より価値のある作業に時間を割くことができる。

生成 AI が得意とする領域は幅広いが、中でも期待されるのがデータ解析とその結果の視覚化である。様々な種類のデータから意味のある傾向やパターンを見つけ出す、という分析作業だ。例えば、グラフなどを用いて視覚化、レポートを作成することなども含まれる。

それに加え、コンピュータ・プログラムの作成も得意である。これは一見意外かもしれないが、プログラムも言語である、と考えると理解しやすい。

また、インターネットにはプログラム学習や成果の共有といった目的から、多くのサンプルコードが存在する。これらのサンプルコードから生成 AI が「良いプログラムの書き方」を学んでいる。

生成 AI が間違った内容を含む文章を作ってしまうように、プログラムについても間違った内容が生成されることはある。だが、プログラムという存在が論理的でブレが少ないからか、自然言語に比べると

間違いは少ない傾向にある，と言われている。

しかし，生成 AI によるプログラム生成には限界がある。基本的なプログラムは生成できるが，複雑なプログラム全体の構造を一から生成 AI だけで設計し，一度に完全に作り上げることは，現時点ではまだ難しい。

現在の生成 AI は，各種の業務内容を細分化して与えられたなら，それらを高い精度で処理することが可能である。だが一方で，全体の業務を統合するのはそこまで得意ではない。「大局観に欠ける」という言い方ができるかもしれない。これは生成 AI そのものの限界というより，開発の途中であるから，という点が多分に影響している。

また，そもそも「目的通りの仕事ができているか」ということに責任を取る役割は，本質的には人間が担当すべきものだ。それぞれのタスク履行は AI が行う領域でも，それらを全体のビジョンに組み合わせる統括的な役割は，人間の方がより向いている。ただし，「より良く組み合わせるにはどうすべきか」というパズル的な部分は，AI にさせた方が効率は良い。そもそも「良い組み合わせ」がなにかを定義するのが人間の役割である。

全体のプランニングや創造的なアイデア出しといった部分も，人間が担当すべきだ。これらは我々が楽しみを感じる活動であり，高度な視点から全体像を見つめ，検討する作業は，それ自体が面白く刺激的な仕事でもある。

人間が得意とするこれら創造的な仕事を自分たちで行い，一方で面倒で時間のかかる大変な業務を生成 AI に委託するのが，最適な分担と言えるのではないだろうか。